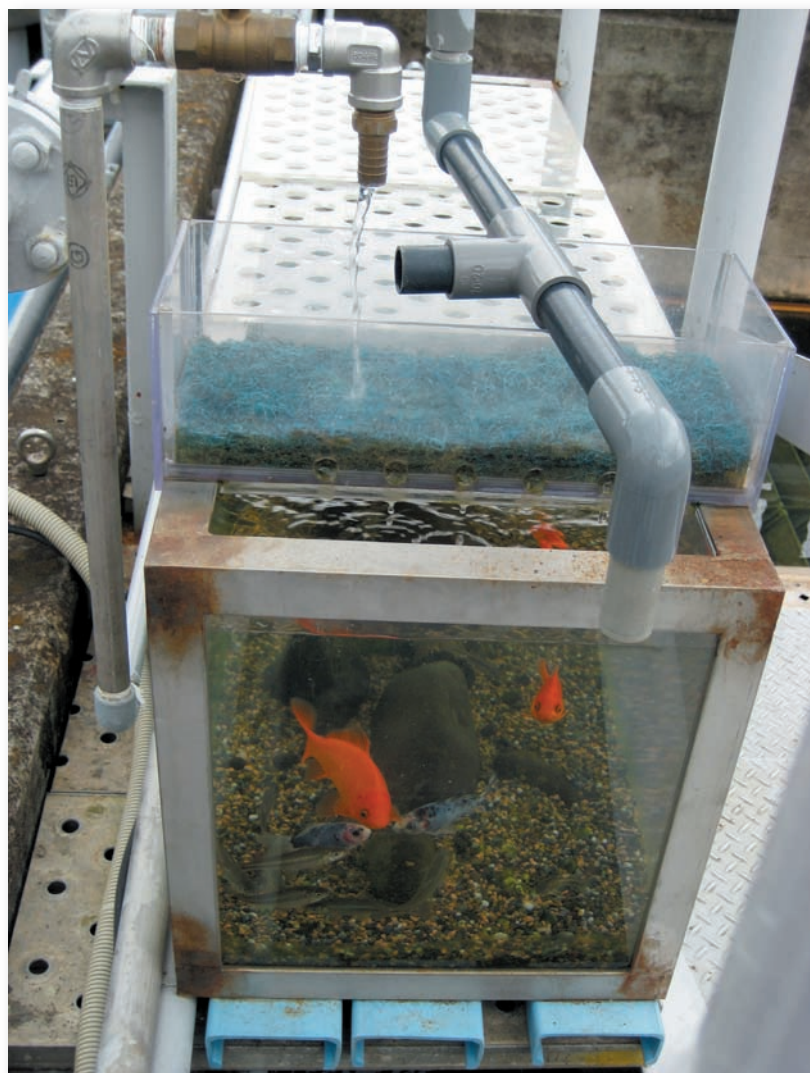


TOSHIBA

環境報告書

2010



株式会社 **東芝** 小向工場

■ ごあいさつ	
■ 小向工場概要	
■ 2009年度環境目標達成度	
■ 環境マネジメントシステム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境基本方針 1 ・ 環境マネジメントシステム 2 ・ 環境活動体制 2
■ 持続可能な社会のために	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境負荷 3 ・ 環境測定 4 ・ 環境監査 5 ・ 環境教育 5
■ 生産活動での環境配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球温暖化防止 6 ・ 化学物質の管理 7 ・ PRTR 7 ・ 廃棄物削減活動 8 ・ グリーン調達の取組み 8
■ 環境調和型製品	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境調和型製品開発の推進 9 ・ 製品アセスメントの取組み 9
■ 地域との共生のために	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域コミュニケーション 10・11

編集方針

本報告書は当工場の2009年度(2009年4月～2010年3月)に行った環境に関する活動・成果を取り纏めたものです。記載内容につきましては、当工場が行っている環境活動について、皆様にご理解を頂くため編集致しました。

報告対象範囲

本報告書の記載範囲は東芝小向工場を報告対象範囲とし、工場内の関係・協力会社も含みます。

21世紀は、私たち一人ひとりが、自らを取り巻く環境のあり方を地球的な視野をもって改めて問い直す時代だといえます。地球温暖化などの環境問題への対応と同時に、資源を有効活用する、リサイクルする、といった循環型社会の構築が急務です。循環型社会を目指すために、企業には、環境への負荷をできるだけ下げ、環境効率をあげる経営と、そのための意識の向上が求められています。

私たち小向工場は環境方針の中で、「電波通信機器、マイクロ波半導体、自動化機器を開発・製造するエレクトロニクス・システム工場として、環境に配慮した事業活動の推進と環境調和型製品の提供を通じ、社会に貢献する環境への取組みを、工場経営の最重要課題の一つとして位置づけ、環境保全システムの継続的な改善・向上を図るとともに環境汚染の予防に努める。環境関連の法令・協定、当工場が同意したその他の要求事項及び、自主基準などを遵守する。製品・システムの企画及び開発・設計の段階においては、環境側面について生物多様性を含む環境への影響を評価し、環境調和型製品・サービスの提供に、事業活動においては、省エネルギーによるCO2排出量の削減、化学物質排出量の削減、廃棄物の削減、環境関連設備の改善等による環境負荷の低減に取り組む。関係会社、取引先等の指導・支援、地域・社会との協調連帯を図る。」ことを誓約しています。この環境方針の具体的な取組みとしては、ISO14001環境マネジメントシステム及び、第4次ボランタリープランにより自主的な目標値を定め推進しております。

この環境報告書は、東芝小向工場の環境活動内容をまとめたものです。

この報告書をご一読いただき、私たちの活動へのご理解を賜るとともにご意見をお聞かせいただければ幸いです。



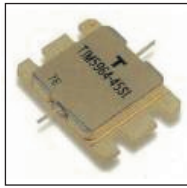
東芝小向工場
工場長

西 館 誠

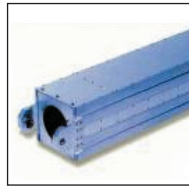
1. 所在地 神奈川県川崎市幸区小向東芝町1番地
2. 設立 1937年12月
3. 敷地面積 127,149㎡
4. 延床面積 171,991㎡
5. 従業員数 3,447人（関係会社含む）
6. 主要製品 航空機器、航空保安管制機器
マイクロ波半導体、気象防災機器
自動化機器



空港監視レーダ
／二次監視レーダ



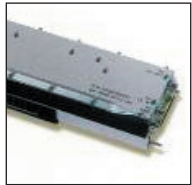
動力用FET



Lバンドモジュール



- 東芝電波プロダクツ株式会社
- 東芝電波システムエンジニアリング株式会社
- 東芝電波コンポーネンツ株式会社
- 東京エレクトロニクシステムズ株式会社
- 株式会社エレクトロ・デザインセンター
- 東芝ソシオシステムズ株式会社



Sバンドモジュール



駅務機器システム



紙幣処理機器システム



郵便機器システム

2009年度環境目標達成度

小向工場は下記に示したとおりの環境目標を掲げ、それぞれに具体的テーマを設定し環境活動を推進しています。2009年度につきましては、廃棄物総発生量の削減で未達成となりましたが、他の目標については、全て達成することが出来ました。

(評価の凡例：😊 目標達成 ☹️ 目標未達)

環境目標	目標値	実績値	評価
ECP比率の拡大	①電波シ製品売上高比 100%削減 ②SAシ製品売上高比 78.5%削減	売上高比率 ①100%→達成 ②84.3%→達成	😊 😊
生産高原単位削減	CO2生産高原単位10.25	9.5	😊
廃棄物総発生量の削減	生産高原単位30%削減	26%削減	☹️
ゼロエミッション	ゼロエミッション残渣率0.5%以下	実績値 0.35	😊
水受入量生産高原単位削減	生産高原単位20%削減	24%削減	😊

株式会社東芝 小向工場 環境基本方針

株式会社東芝 小向工場は、電波通信機器、マイクロ波半導体、自動化機器等を開発・製造するエレクトロニクス・システム工場として、環境に配慮した事業活動の推進・環境調和型製品の提供を通じて、近隣住宅地域との長年の信頼関係を継続しつつ社会に貢献することを目指します。

そして、「かけがえのない地球環境」を、健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識に立ち、東芝グループの経営理念に基づき低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指した環境活動により持続可能な社会の実現に貢献する事業活動、製品、サービスのあらゆる面で、環境活動を『見る・見える・見せる管理』をモットーに技術的、経済的に可能な範囲で、次の方針で展開します。

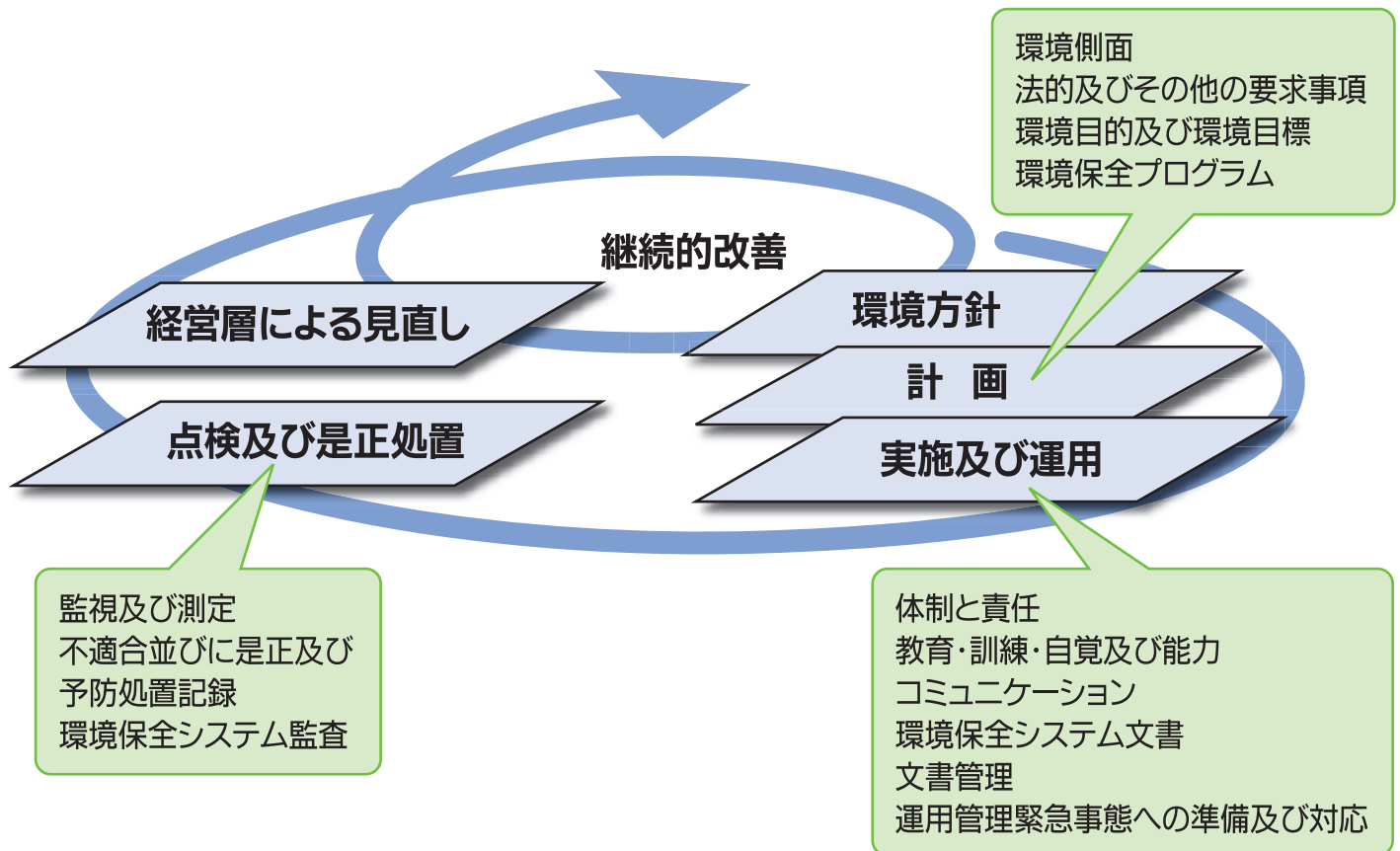
1. 環境への取り組みを、工場経営の最重要課題の一つとして位置づけ、環境保全システムの継続的な改善・向上を図るとともに環境汚染の予防に努めます。
2. 環境関連の法令・協定、当工場が同意したその他の要求事項及び自主基準などを遵守します。
3. 製品・システムの企画及び開発・設計段階において、環境側面について生物多様性を含む環境への影響を評価するとともに次の環境配慮活動を推進し、製品のライフサイクルを通して環境負荷を低減する技術の開発と環境調和型の製品・サービスの提供に取り組みます。
 - (1) 使用材料の節減、消費電力の低減等による省資源・省エネルギー化
 - (2) 再生・再利用が可能な部品・材料の使用率向上等による再資源化
 - (3) 使用部品・材料のグリーン調達の推進
 - (4) 有害物代替化、分解性の向上等による廃棄処理の容易化
4. 事業活動において、次の項目を環境活動重点テーマとして取組みます。
 - (1) 電気・都市ガスの省エネルギーによるCO2排出量の削減
 - (2) 化学物質排出量の削減、環境関連設備の改善等による環境負荷の低減
 - (3) 廃棄物の発生低減と分別回収・リサイクルによる総排出量削減、
ゼロエミッションの継続推進
 - (4) 水受入量の削減
5. この環境基本方針の達成のため、環境目的、目標を設定し、全部門・全従業員をあげて環境活動を推進します。また、これらの活動をレビューすることにより継続的な改善を図ります。
6. 関係会社、取引先等の指導・支援を行い、環境活動の拡大を図ります。
7. 緑あふれる、地域に開かれた工場を目指し、景観の改善と緑化に努めるとともに、地域・社会との協調連帯を図り、積極的な情報開示とコミュニケーションを行います。

— この環境基本方針は、工場内全従業員に周知するとともに、外部の人にも開示します —

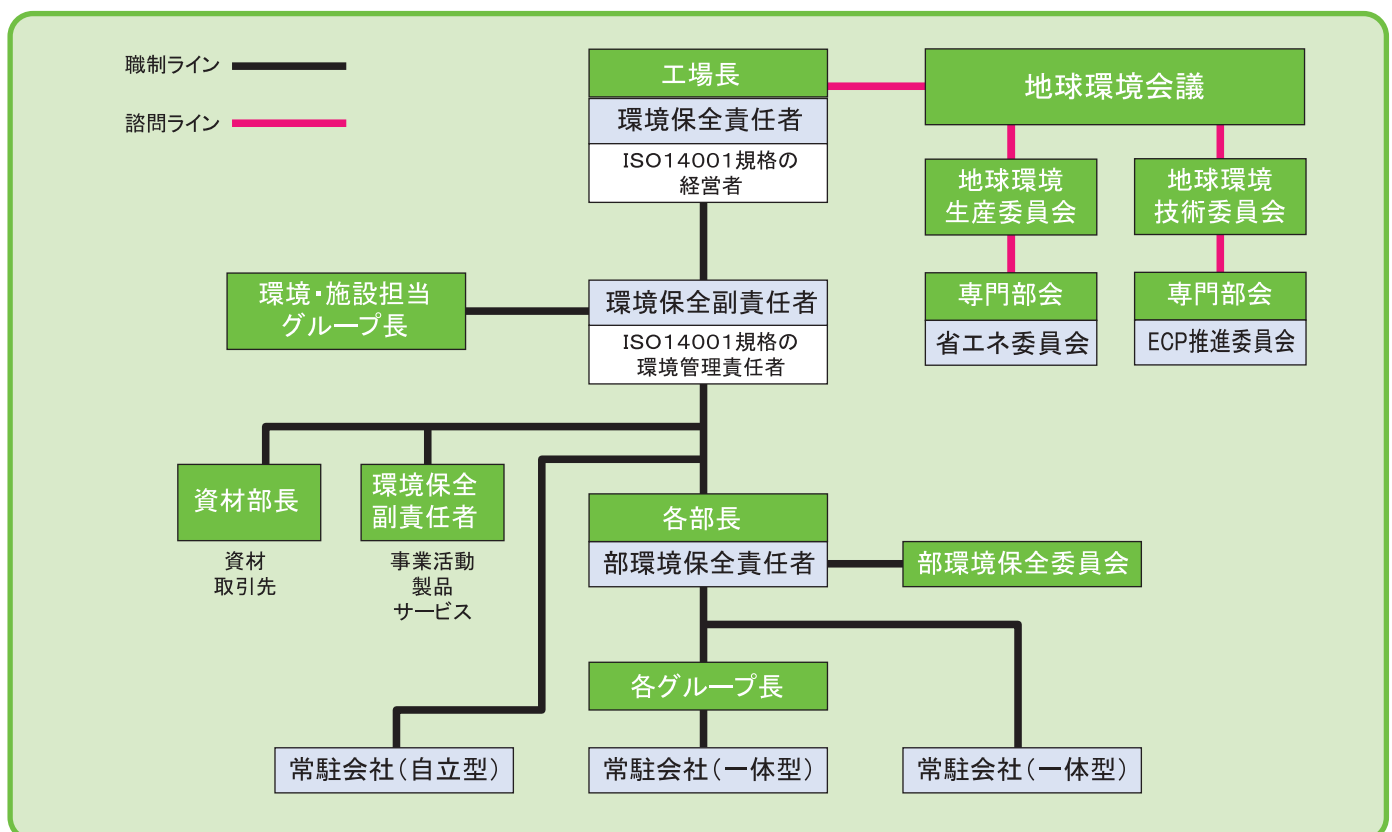
2010年9月24日

工場長 西館 誠

□環境マネジメントシステム



□環境活動体制図



□環境負荷

事業活動に伴う環境負荷を投入と排出別にまとめると以下のようになります。主なものとして、エネルギー、水、化学物質、排ガス、排水、廃棄物の排出があげられます。今後も継続的に監視を行いデータを収集することで、環境負荷低減活動を進めるにあたり有効に活用していきます。

■環境負荷概要(2009年度)■

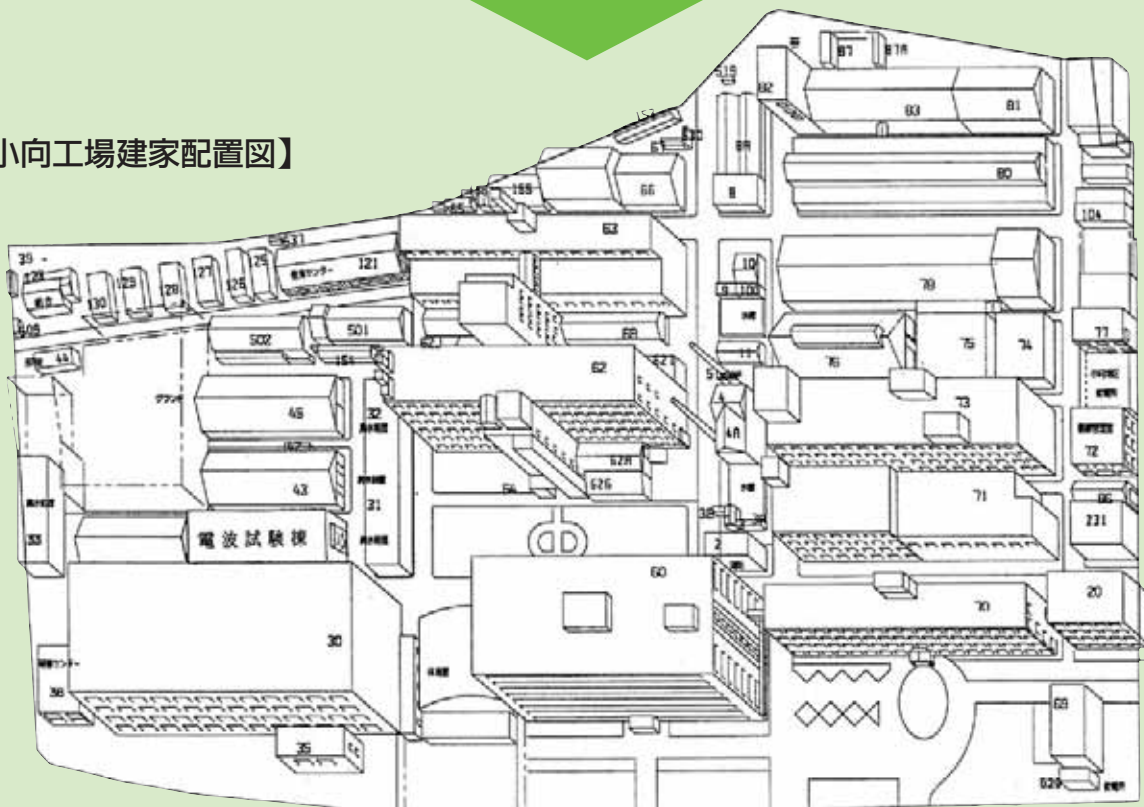
電気使用量 : 2962万kW
都市ガス使用量 : 615Km³

用水使用量
市水 : 99Km³
工水 : 80Km³

化学物質取扱量 : 10t

投入

【小向工場建家配置図】



排出

CO2排出量 : 10199t
ばいじん : 0.02t
N O X : 1.2t

排水量 : 345Km³

廃棄物量
総発生量 : 1070t
再資源化量 : 472t
最終処分量 : 3t

□環境測定

水質、大気、騒音、振動の環境測定を定期的を実施し、法規制値・自主管理値と比べ問題ないことを確認しています。下表は2009年度各測定結果を示したものです。

●排水測定結果(酸排水処理施設)下水道法

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5~9	6.0~8.0	6.3~7.3	月1回
BOD(mg/ℓ)	600	120	1~43	月1回
SS(mg/ℓ)	600	70	1~3	月1回
AS(mg/ℓ)	0.1	0.05	<0.01	月1回
窒素(mg/ℓ)	240	35	6.7~9.9	月1回
フッ素(mg/ℓ)	15	15	0.7~3.5	月1回

【放流口PH計】



●最終放流口(下水道法)測定結果

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5~9	6.0~8.0	6.8~7.5	月1回
BOD(mg/ℓ)	600	120	1~110	月1回
SS(mg/ℓ)	600	70	1~48	月1回

【緊急自動遮断弁】



●大気測定結果

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx(g/1000kj)	0.063	0.05	0.0188~0.0324	年6回
SOx(g/1000kj)	0.08	0.01	<0.002	年6回
ばいじん(g/1000kj)	0.05	0.005	<0.002	年6回

【炉筒煙管ボイラー】



●騒音・振動測定結果(敷地境界)

	測定場所・時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界:昼	70	70	46~62	年6回
	敷地境界:夜	55	55	42~52	年6回
振動(dB)	敷地境界:昼	70	45	<30~37	年6回
	敷地境界:夜	60	40	<30	年6回

異常事態対応訓練

【訓練状況】



【訓練の効果確認】



□環境監査

次のような監査を受査し、環境保全システムの向上に努めています。

- **ISO14001継続審査／更新審査**
外部の認証機関により毎年継続審査を、また3年に1回更新審査を受けています。
- **内部環境監査**
ISO14001規格の要求事項に基づき年に1回各部門の内部環境監査を行っています。
- **社内環境監査**
東芝社内環境監査に基づく監査を行っています。



ISO14001:2004 カンパニー統合認証
株式会社東芝スマートファシリティ事業統括部・社会システム社
及びグループ会社6社

構成組織 株式会社東芝小向工場
ISO14001:2004・JIS Q 14001:2004

- ・登録証番号 EC07J0112
- ・明示登録証番号 EC07J0112-35
- ・認証機関 JACO
- ・登録日 2007年11月21日
- ・更新日 2010年9月8日
- ・有効期限 2013年9月7日

□環境教育

環境保全レベルの維持・向上には従業員一人ひとりのスキルアップが必要です。当工場は、従業員の専門性に応じた環境教育カリキュラムを策定し、教育を実施しています。従業員一人ひとりが自分自身の役割を理解し、継続的な改善・向上に全員参加で取り組んでいます。

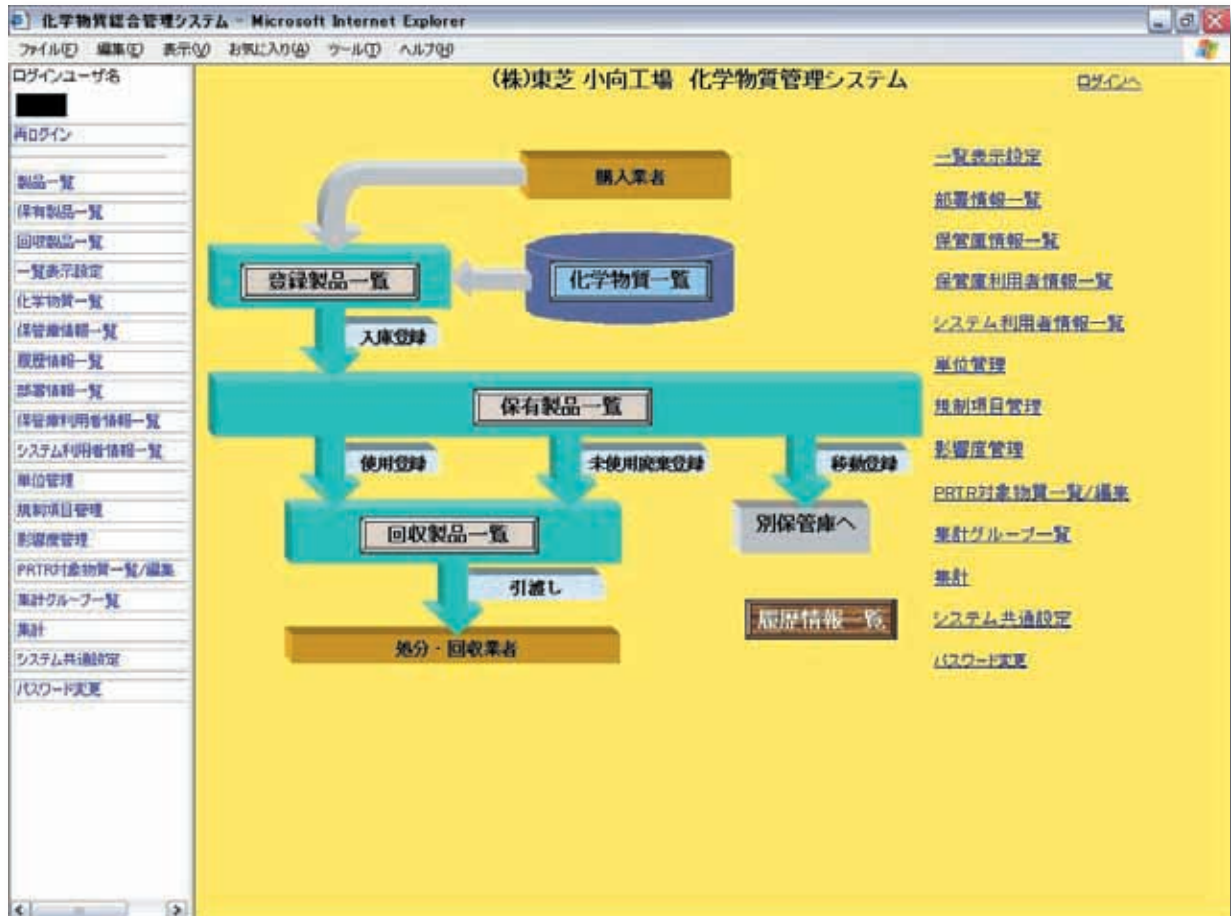
- **階層別教育**
・部長クラス教育、担当者教育等。
- **職能別教育**
・技術者教育、特定作業従事者教育等。
- **教育頻度**
・階層別教育は、1回／3年、職能別教育は、1回／2年。



【(向)階層別教育資料】

□化学物質の管理

当工場では化学物質管理システムを導入し、工場で使用する化学物質の取扱量、排出量を管理しています。



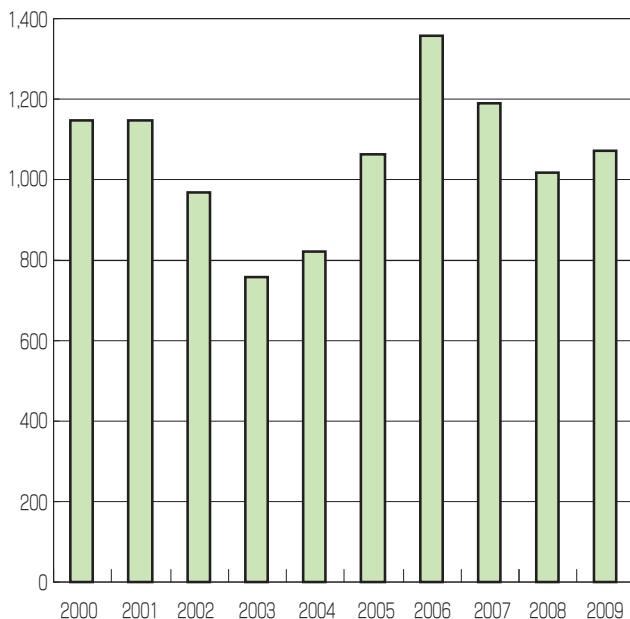
塩化メチレンは88年9月、洗浄用特定フロンは、95年10月に廃止した他、化学物質排出元である塗装施設、めっき施設を廃止するなど、環境負荷物質の削減を進めています。

□PRTR

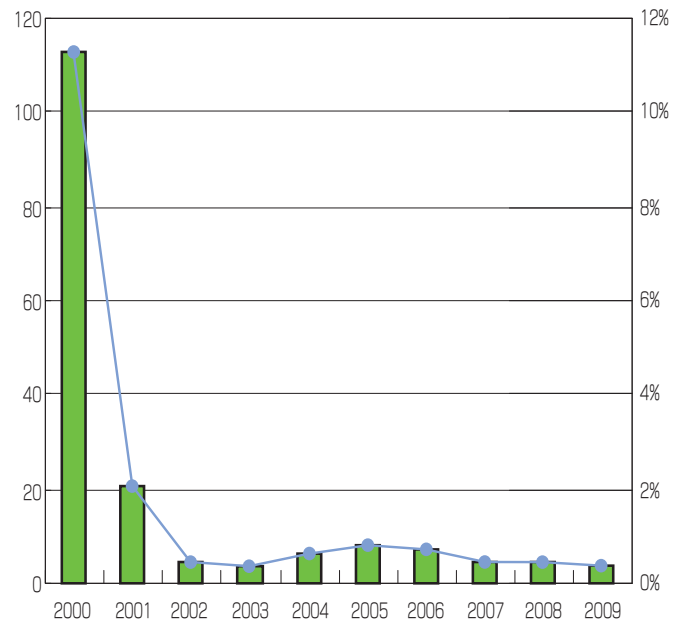
東芝グループでは、PRTR法施行(2000年3月30日)以前から、独自に特定化学物質の排出・移動量の把握に努めてきました。PRTR法では、第一種指定化学物質の年間摂取量が1t以上(特定第一種化学物質においては0.5t以上)となった場合に都道府県経由で国に排出量・移動量を報告します。当工場では、東芝グループの指針に準拠し、年間0.1t以上取扱う第一種指定化学物質を開示対象とし、排出量・移動量以外にも取扱量・消費量・除去処理量・リサイクル量を合わせて開示しています。

□廃棄物削減活動

廃棄物の総排出量を削減するとともに、廃棄物ゼロエミッションを達成・維持する活動を行っています。



□ 総排出量



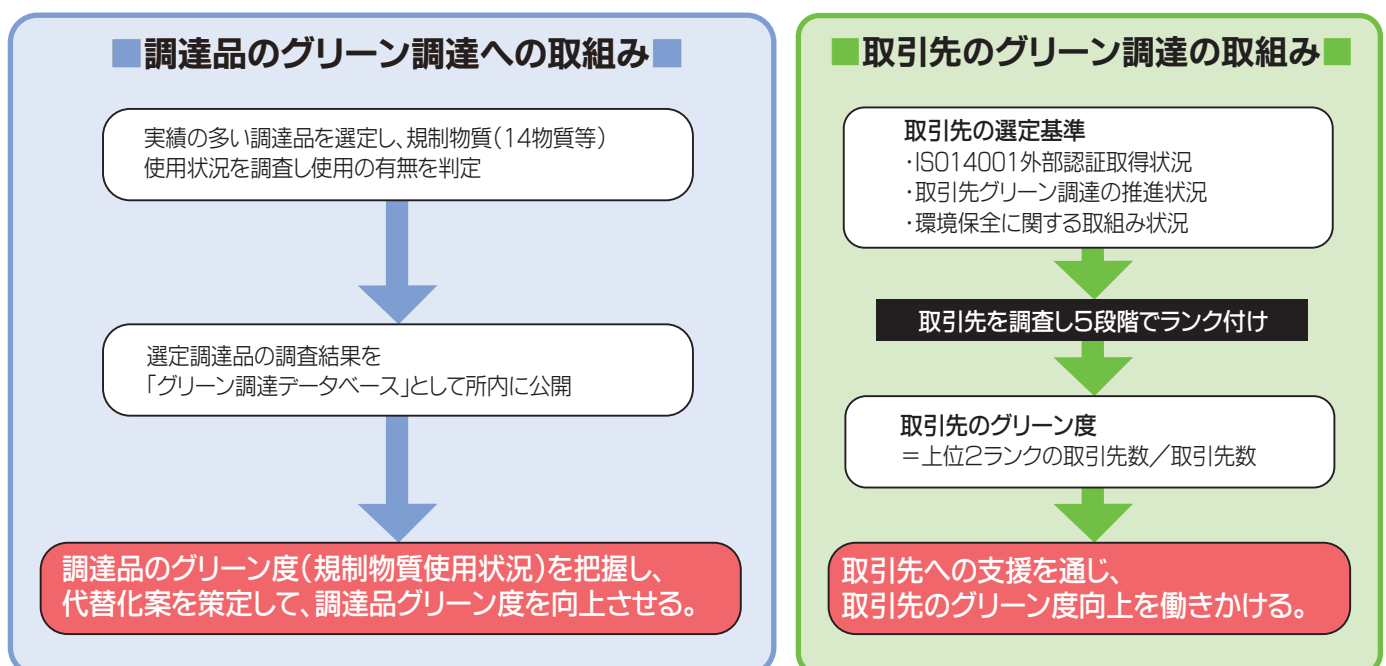
■ 最終処分量 ● 最終処分率

□グリーン調達の実践

東芝が「グリーン調達ガイドライン」で定めるグリーン調達のねらいは2つあります。

- (1) 環境保全を推進している取引先からの調達
- (2) ライフサイクルにおける環境負担が小さい製品、部品、材料、原料の調達

当工場では、これに基づき、取引先のご協力のもと、従来から(1)の取引先のグリーン度向上に努めてきました。2003年度からは(2)の調達品のグリーン調達への取り組みを開始しました。



地域との共生のために

□地域コミュニケーション

良き企業市民として地域社会との共生を目指し、コミュニケーションの向上を図っています。活動内容や成果をより具体的に理解していただくため、さまざまなメディアを通じて環境情報を公開していきます。

多摩川クリーンキャンペーン



実施日 7月15日(水)

実施場所 多摩川河川敷

小向地区3事業所で合同して、多摩川クリーンキャンペーンを実施した。約340kgのゴミを回収し、河川敷をきれいにすることが出来ました。



工場周辺清掃



実施日 毎月第3月曜

実施場所 工場周辺

CSR活動の一環として、毎月第3月曜日に工場周辺の清掃を行っています。



行政イベントへの参加



川崎エコドライブ宣言

東芝物流
小向輸送センターが登録



エコキャップ収集

各職場等で協力頂きペットボトルキャップは、グループMATEへ
10/1現在
1,160,760個を寄付。
H19/8から継続中です。



近隣住民への事業活動説明会



実施日 10月6日(火)
実施場所 (向)構内

10月6日(火)に、近隣の6町内会を招き、事業活動説明会を開催致しました。事業説明、施設見学等を行い、地域とのコミュニケーションを図りました。



工場従業員への広報



環境見学会(電気の史料館)



看板設置で周知



イノベーション展にて環境掲示



表紙の写真は酸排水処理施設で処理された排水を使って飼っている金魚です。
工場から出る排水がクリーンな事を示しています。



株式会社 **東芝 小向工場**

総務部 環境・施設担当

〒212-8581 神奈川県川崎市幸区小向東芝町1番地

■お問い合わせ先 (044)548-5262

2010年8月発行